

小学部 肢体学級 生活科

「つながりゲーム」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・『コミュニケーション力』の項目にある「相手の話しに注意を向けようとする」「自分の気持ちを表情や身振り、言葉等で伝えようとする」ことをねらいとしている。

【知識・技能】

ゲームの流れやルールを理解し、友だちと協力して取り組む。

【思考力・判断力・表現力】

自分の気持ちや見聞きしたことを言葉や、身体の動き、表情などで伝えることができる。

【学びに向かう態度】

友だちと協力するということ意識しながら、興味を持って取り組むことができる。

2. 児童・生徒の実態

【低学年】

(1年)自分の気持ちを表情などで伝えられるようになってきている。友だちを意識する気持ちが強い。

(3年)トーキングエイドを用いてコミュニケーションが取れる。大人との関わりが中心。

【高学年】

対大人中心の関わりが多く、同じクラスの友だちは意識しているが他児童と関わりが少ない。

3. 本時の目標

- ・友だちと協力して取り組み、お互いの考えに気付く（知・技）
- ・自分の気持ちや見聞きしたことを、言葉や身体の動き、表情などで伝えることができる（思）
- ・友だちと協力するということ意識し、興味を持って取り組むことができる（態）

4. 活動・教材等の工夫

○グルーピング

- ・他クラスの児童とペアを組み、関わる機会の少ない友だちと活動する機会を設定。お互いに得意なことでコミュニケーションを取れるグルーピング。

○最小限のサポートで動ける工夫

- ・「指令カード」に探すもののイラストと探索場所の写真を記載。探索場所は、児童が普段利用している場所に設定。
- ・教師からの言葉がけはできるだけ少なく、児童の主体性に任せて活動。

○音や光の活用

- ・パーツをはめる際に注意を引くようなライトや効果音などの演出。

5. 学習の様子



6. 成果と課題

【成果】

- ・人数的にお互いを意識しやすく、やりとりできるグルーピング。
- ・児童同士で考えさせるような教師の言葉がけ、言葉を繋ぐ役割に徹底。
- ・協力して取り組める課題の設定。
- ・視覚的、聴覚的な工夫や使いやすい教材を設定。

【課題】

- ・『関わり』をメインに取り組むのであれば、活動内容を減らして、やりとりの時間を確保してもよいのではないかな。
- ・半分持つ、手渡すなど子供同士の直接的な関わりや、友だちの動きがわかる工夫を。
- ・役割分担で一つ物を完成させたり、やりとりしたりする課題の設定。
- ・集団の確保。

小学部 知的学級 1 年 生活科

「きれいにしよう」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・手洗い、歯磨き、汚れた衣服の着替えの授業を通して、つきたい力の『基本的生活習慣』の項目にある清潔、身だしなみの基礎の力を身に付けることをねらいとしている。

【知識・技能】

手洗い、歯磨きの方法が分かる。汚れに気付いて着替えの必要性を知る。

【思考力・判断力・表現力】

必要性に気づき、手を洗ったり、歯を磨いたり、着替えることができる。

【学びに向かう態度】

日常生活の中で清潔にしようとすることができる。

2. 児童・生徒の実態

- ・衣服や手の汚れが気にならず、着替えの必要性を感じていない児童がいる。
- ・汚れに気付いても、自ら「着替え」の判断をすることが難しい児童もいる。
- ・自分の身の回りの清潔への意識が低い。

3. 本時の目標

- ・手の汚れや衣服の汚れに気付く。(思)
- ・汚れに気付いて着替えることができる。
(知・技)
- ・日常生活の中で清潔にしようとする。(態)

5. 学習の様子



4. 活動・教材等の工夫

○子どもの日常を取り入れた教材の工夫

- ・泥遊びで汚れた手や衣服に気付かせ、日常場面につなげやすくした。

○教師の支援を最小限にし、自分たちで気付かせる工夫

- ・思い切り遊んで服を汚すことで、不快感を感じさせた。
- ・汚れた衣服を着たまま着席させ、教師がいつも通り話を始めることで違和感を感じさせ、子どもから「着替えたい」の言葉を引き出した。

○教材の工夫

- ・教師が白い服を着たことにより、客観的に汚れを認識できるようにした。

6. 成果と課題

【成果】

- ・子ども自身が、着替えの必要性に気付くことができた。
- ・日常生活にある遊びの場を設定したことで、導入から学習へのつながりがスムーズにでき、子どもたちの気づきに繋がった。

【課題】

- ・着替えに持って行くタイミングの工夫。
- ・重度の子どもにも分かる教材（イラスト等）が必要。
- ・表出が難しい子どもに対しての支援。
- ・教師が伝えたいことを的確に伝える。

小学部 知的学級2年 生活科

「みんなでゲームをしよう」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・『コミュニケーション力』の項目にある相手の話を聞いたり自分の気持ちを伝えたりする力を身につけることをねらいとしている。

【知識・技能】

・簡単なルールを理解する。

【思考力・判断力・表現力】

・ルールを意識して、友だちと協力したり工夫したりしながら活動に参加する。

【学びに向かう態度】

・友だちを誘ったり認めたりして、自ら関わろうとする。
・一緒に活動をする中で友だちとの関わりを広げる。

2. 児童・生徒の実態

- ・学年全員で行う授業であり、児童の実態が幅広い。
- ・授業に参加することが難しい児童もいる。
- ・活動の順番やペア決めなどで、自分中心に考える児童が多い。

3. 本時の目標

- ・簡単なルールやマナーを理解する（知・技）
- ・ルールを意識しながら、友だちと協力して活動に参加する（思）
- ・友だちを誘ったり認めたりして、自ら関わろうとする（態）
- ・一緒に活動する中で友だちとの関わりを広げる（態）

5. 学習の様子



4. 活動・教材等の工夫

○前時の振り返り

・前時に学習した良い言葉のかけ方について振り返ることで、箱積みゲームの際に友だちに対して肯定的な言葉で応援したりアドバイスしたりすることができた。

○友だちとの話し合い活動

・児童の実態に応じて教師が話し合いの中で声かけを行ったり、ミニホワイトボードや顔写真を使用したりすることで、ゲームの順番を選択することができた。

○箱積みゲーム

・交代の際に声をかけたり、タッチしたりすることで、自分の順番を理解してゲームに取り組むことができた。

6. 成果と課題

【成果】

・箱積みゲームのルールがわかりやすく、幅広い実態の児童が一緒に行った授業でもみんなが理解することができた。（タッチしたらゲームの順番交代など）また、視覚支援もよかった。

【課題】

・相談タイムの際、話し合いのテーマを明確に提示することが必要だった。

・活動人数について→ペアでの活動にすることで、待ち時間がなくなり、活動内容が明確になる。

・1時間での活動量が多かったので、ルールについて、順番決め、ゲームを1時間ずつにわけると、授業をシンプルにしたらわかりやすかった。

小学部 知的学級3年 生活科

「世界の文化を知ろう」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・興味ややってみたい気持ちを育み、ひとりで色んな人と関わることで、『チャレンジする力』の項目のやりたいことに意欲的に取り組む力をつけることをねらいとしている。

【知識・技能】

・外国の祭りを知る。

【思考力・判断力・表現力】

・やってみたい祭りを選ぶ。ひとりで色んな人とやりとりができる。

【学びに向かう態度】

・「やってみたいな」という気持ちを持ち、意欲的に取り組む。

2. 児童・生徒の実態

- ・算数は、足し算：10まで～繰り上がり。引き算。国語は、ひらがな拾い読み～カタカナ、漢字の学習をはじめた。
- ・自分から伝える、聞く、やってみるものの弱さがあり自己表現が苦手。
- ・語彙の弱さ、言葉で伝える経験が少ない
- ・指示待ちの傾向がある。失敗を恐れ自分ひとりで何かをする経験が少ない。

3. 本時の目標

- ・ハロウィンの内容と3つの約束（かぼちゃの提灯、セリフ、仮装）がわかる。
- ・色んな場所へ入る時のマナーがわかる。（知・技）
- ・校内の色々な場所へ1人で行き、5つのことばを伝えることができる。
- ・ハロウィン祭りを楽しむ。（思・態）

5. 学習の様子



4. 活動・教材等の工夫

○ハロウィン5つことばの練習

【①失礼します②自分の名前③トリックオアトリート④ありがとう⑤失礼しました】
5つのことばが明確化されていて児童にとって分かりやすい。

○ひとりで入室しハロウィンのやりとり

手持ちのカードを用意しておくことで、一人でセリフを言ったりやりとりしたりすることができた。2回目以降はカードがなくてもしっかりと伝えることができ、自信を持って取り組むことができた。

○単元を通して

まつりやおばけといった興味関心を持てる題材の設定や、児童の希望に寄り添った衣装作りなど、児童が主体的に取り組める内容や教材の工夫がされている。

6. 成果と課題

【成果】

- ・児童の実態把握がしっかりとできている。
- ・児童が興味関心を持てるような教材の工夫がされていた。
- ・授業計画や場面設定がしっかり組み立てられていたため、自己発信できる工夫がされていた。
- ・授業後の子どもの変化として、一人で事務室など色々な所へ行ってやりとりできるようになった。

【課題】

- ・今回の授業ではマナーの学習も含めたやりとりをねらいに取り組んだため少し緊張があったが、もう少しコミュニケーションを自由にできる時間を作っても良かった。
- ・やりとりしている様子をzoomでつないで見ることができるようにする等、友だちの取り組みを見れる工夫があれば良かった。

小学部 知的学級4年生 生活科

「ポンポンホッケー」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・『コミュニケーション力』の項目にある「相手の話を聞く」また、子どもたち同士で話し合い活動をする力をつけることをねらいとしている。

【知識・技能】

簡単なルールや約束を理解し、守ることができる。

【思考力・判断力・表現力】

友だちのことを考えて発言や行動をすることができる。

【学びに向かう態度】

友だちと関わりをもち、きまりを守ったり、教師や友だちと遊びを工夫しようとしたりする。

2. 児童・生徒の実態

自分の思いを伝えることができるよう仲間づくりや雰囲気づくりを行っているが、ほとんどの児童が、自分の気持ちを積極的に伝えることが苦手である。反面、自分の気持ちを優先させてしまい、相手に譲ったり我慢したりすることが難しい児童もいる。

3. 本時の目標

- ・ポンポンホッケーのルールや約束が分かり、試合をすることができる。(知・技)
- ・話し合い活動を通して、自分の思いを伝えたり試合をすることができる。(思)
- ・シュートの順番を決めたり、話し合いに参加したりしようとする。(態)

5. 学習の様子



4. 活動・教材等の工夫

○話し合い活動

- ・自分の思いを伝えたり聞いたりできるよう少人数（2人）での活動を設定。
- ・気持ち表出のために、選択できるようなイラストや写真の準備。

○視覚支援のための教材の活用

- ・応援の方法、シュートの仕方、シュートをする人等、主体的に活動できるような教材の準備。

6. 成果と課題

【成果】

- ・シュートの順番がわかるようホワイトボードを活用した視覚支援ができていた。
- ・シュートをする人がわかるよう、ビブスを活用していた。
- ・応援の言葉を児童から引き出すことができていた。
- ・試合中に教師が応援の言葉を発信することで、児童にわかりやすく伝えることができた。児童から「ナイスシュート！」と応援できた場面が見られた。

【課題】

- ・話し合いの約束を決めたり基本的な手順を提示したりして積極的に話し合いに参加できる工夫を行う。
- ・教師が話し合いの手本を提示し、イメージを持てるようにする。
- ・シュートする人を決めないで複数人でゲームを行い、児童の中から困り感や問題点が出てきたらみんなで改善策を考えるようにする。

小学部 知的学級5年 生活科

「お手伝いをしよう」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・『社会生活力』の項目にある責任を持って取り組むことや仕事につながるお手伝いの意義と姿勢を身に付けることをねらいとしている。

【知識・技能】

・手伝いに必要な機器や用具の名称や使い方が分かる。
・手伝いを行うにあたり、丁寧に行うこと、任されたことに責任を持って行うことが大切なことを理解する。

【思考力・判断力・表現力】

・自分ができる手伝いを進んでしようとする。

【学びに向かう態度】

・手伝いの中で、感謝されたり達成感を味わったりすることを通し、手伝うことの喜びを感じる。

2. 児童・生徒の実態

・何に対してもめんどくさいと言う児童が多く、思い通りにならなかったり嫌いな事はやらなかったりする反面、少しでも褒められると嬉しそうな姿も見せる。
・友だちがやっていたら自分もやってみようと思う児童もいる。

3. 本時の目標

・お皿洗いや洗濯たたみに”丁寧に”取り組むための具体的な方法が分かる。(知・技)
・手伝い作業をする上では”丁寧さ”が大切であることに気付く。(思)
・自分が行ったお皿洗いや洗濯物たたみの作業の改善点を考え、次の活動や家庭での手伝いに生かそうという気持ちを持つ。(態)

5. 学習の様子



4. 活動・教材等の工夫

○教師の発問

・なぜそうするのかを発問することで、児童が一步先を考え、どうすれば良かったか考えられるよう工夫する。

○教材

・前回に取り組んだ食器洗いと洗濯たたみのできている点、できていない点を写真で示し、分かりやすく比較できるようにする。

6. 成果と課題

【成果】

・教師の発問が児童からの意見を引き出すようなものであり、児童が考えることができるようになっていた。

【課題】

・児童が意見を出したりワークシートを書いたりといった内容であったので、内容をしぼり、活動を取り入れても良かった。

小学部 知的学級 6 年生 生活科

「和歌山について知ろう」

1. 本単元を通して身につけさせたい力

・『社会生活力』の項目にある「身の回りの様々なことに関心を持つ」こと、また児童が進んで調べる力を身につけることをねらいとしている。

【知識・技能】

和歌山（白浜町）の位置や特徴を知り、主要な施設の簡単な働きに気づく。

【思考力・判断力・表現力】

町の位置や名産品、施設のことについて調べて、地図に表す。

【学びに向かう態度】

白浜町に関心を持ち、進んで調べようとする。

2. 児童・生徒の実態

- ・ 5 年生で高野口探検を行い、実際に歩いたり地図に印したりする学習をしている。
- ・ iPad は画像検索や写真撮影などで扱ったことがあるが調べ学習で使うのは初めての児童がほとんどである。

3. 本時の目標

- ・ 町名と町の位置を知る。 (知・技)
- ・ 町の位置や主要な施設について調べて、地図に表す。 (思)
- ・ 白浜町に関心を持ち、進んで調べようとする。 (態)

4. 活動・教材等の工夫

○白地図の活用

- ・ 調べたことを白地図に書き込んでいくことで、場所や自分の住んでいる地域からどれくらい離れているのか距離感などを感じられるように工夫。

○視覚支援を用いた導入と説明

- ・ 調べ学習の参考資料として、教師が事前に他の地域について調べた物を提示。
- ・ 実際に iPad を操作する様子を見せながら操作方法の復習を行ってから調べ学習に取り組む。

5. 学習の様子



6. 成果と課題

【成果】

- ・ 教師が声かけをし、児童が自主的に調べたことを発表できる場を設定できていた。
- ・ 協力しながら調べ、発表で互いを認め合うことができていた。
- ・ 地図の目的地を自分たちで見つけられる支援を最小限にしていた。

【課題】

- ・ iPad 以外に、保護者や先輩からの聞き取りや本、地図、地元のパンフレットなども活用。
- ・ 教師が、あらかじめ白浜について簡単に調べておき、イメージを持たせたあと、調べることを自分たちで決めるなど、興味を持って取り組める工夫を行う。
- ・ 市内や橋本など身近な地域を調べた後、白浜について調べるなど順序だてて調べていく。
- ・ 2 時間続きの授業などで、十分に調べる時間を確保する。
- ・ グループ内で役割分担を決めて調べる。